

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|---------------|----|---------------|
| ○事業所名 | 児童デイサービス つばみ | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2024年 6月 1日 | | 2024年 6月 30日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 36 | (回答者数) 27 |
| ○従業者評価実施期間 | 2024年 11月 1日 | | 2024年 11月 30日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 3 | (回答者数) 3 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2024年 12月 28日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|---|---|
| 1 | 地域の小学生を中心に受け入れ、学習課題だけでなくソーシャルスキルの面における支援を意識してかかわっている。 | 小集団での活動で気づきや周囲への意識といったことを狙って支援している。その中で時には個別での対応や、児童とゆっくり話をする機会を設け、気持ちや思いを引き出せるようなかわりを意識している。 | 児童の成長だけでなく、その時々的心情や周囲の環境を含めたその時々状態を考えて支援する為、対応する職員の感性や支援知識、支援技術の向上を常に取り組んでいく。 |
| 2 | 自閉症総合援助センターの機能を掲げる法人の事業所であり、児童だけでなく様々な事業所機能があることで、多様な活動、また相談や協力といったことが可能である。 | 法人内の他の事業所への相談や協力、また活動内容や活動場所をシェアしてもらったりすることで、さまざまな経験をする事が出来る。 | 児童期から青年期、就労までの流れの中で、必要な支援環境や体験、また相談等が円滑に行えるように法人内事業所間での連携を強めていければと考える。 |
| 3 | 職員それぞれが考え、得意なところで活躍でき、状況によって対応者を変更して支援できる。 | 様々な状況が想定される中、特に決まった活動内容ではなく、その時々で必要な支援を行う際に、その支援にあった職員が支援に入るようにしている。 | 支援の統一性が無いようにも考えられるが、児童の成長、状況の変化は目まぐるしく起こっており、決まった活動だけではなく、その時に必要な支援は何か？を考えかわれるように、職員それぞれの感性や見立ての精度を高め、また支援の引き出しや幅を広く持てるようにしていく。 |

| | 事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 職員配置上、有休休暇等で職員が休んだ場合には個別での対応が難しい状況が出てくる。 | 職員配置については基準を満たした状態で運営した上で個別対応を軸に考えてる為、有休休暇等が出た場合には、どうしても現状の体制では難しいところがある。 | 個別対応に加え、複数対応が可能な支援プログラムを検討したり、事業所間での兼務職員による連携等を強化していく。 |
| 2 | 標準化、エビデンスといった支援への意識。 | 児童の成長や取り巻く周囲の環境によりその状態は時々で変化しており、決まった支援や、標準化した支援では本来求められる支援に至らないという思い。 | その場の状況で安心、安全を確保した上での最善の支援を考える。それが時には複数対応であることも考えておく。また、職員間連携の強化はその為には必須条件であると考えられる。 |
| 3 | 大きな支援理念は統一されているが、そこに至る職員の支援方法は、それぞれのパーソナリティによる部分が大きい。 | 決まったプログラムよりも、その時々に必要な支援を考えかわる事が重要と考えるため、主にかかわる職員によって支援方針が決まってくる。 | それぞれの児童への支援方針の共有。他の職員が支援する場合においても、その職員のパーソナリティを活かしつつ、支援方針から大きく外れないようにする。 |